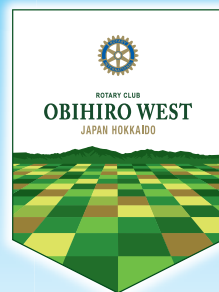




# 帯広西ロータリークラブ 第1970回例会 2012.10.25 会報



■RI第2500地区テーマ■

心と心、笑顔と笑顔、今奉仕のために行動を起こそう



■クラブ・テーマ■

学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ

## ゲスト紹介

姫路RC パストガバナー ロータリーの友委員会特別顧問  
安平和彦 様 令夫人 佐千代 様

## ビジター紹介

帯広RC 後藤健二 様 讃岐武史 様 太田隆博 様

## 会長報告

- 今日は私のテーマの一つに掲げた「学ぼうロータリー」のハイライトの夜です。遠く姫路より安平パストガバナーご夫妻をお招き致しました。お電話を一年以上前のエレクトの時にさし上げ、帯広入りをして頂けないかとお願いを申し上げ快諾して頂き、今日の日の実現となりました。安平パストは私が地区のロータリーの友の代表委員をしている時の代表理事委員長で、非常に温厚な人柄とお話に惹かれ、私どもが主幹した地区大会の講師としておいで頂いた方です。今日、改めてもう一度お話を聞かせて頂けることを光栄に思っております。
- 前回の例会は、金沢に行っており欠席を致して申し訳ありません。金沢の街がなんとと言ってもいいのが、西と東にあるお茶屋さんです。東茶屋、西茶屋。私は初めてお邪魔致しましたが、本当にいい街だなあと思いました。実は金沢でスナックを紹介して頂いたところに、二人の着物をぴったり着こなした素晴らしい御年をめしたママと、姪っさんの楽しいお話や金沢の情報を聞いて、ついでに愚痴も聞いてまいりました。大変楽しいお酒でした。紹介を是非して頂きたい方はスタンド「ひで」という処を紹介いたします。
- 兼六園の錦鯉の額に赤いハート型のマークがついた鯉を見ると、その恋が成就するというので、妻に内緒でいろいろ探したところ、すぐその鯉が寄って来ました。その時の写真を皆さんにお返し致します。兼六園HPより資料提供
- お酒が恋しい季節となりました。11月の第三例会はボジョレーヌーボの解禁日です。プログラム委員長がいろいろ策を練りながら検討されていると思います。是非、今から予定に入れて頂きたいと思っております。
- 最後に、よく使われる「ワンフォーオール」「オールフォーワン」という言葉をまた聞きました。その時の訳が「一人は



兼六園HPより資料提供

皆の為に」「皆は一人の為に」。聞いたことがあると思いますが、これはラクビーから来ていて間違えの訳です。ラクビーでは「一人が皆の為に」「皆は一人の為に」ということが無いわけで、試合に臨む時は「一人が苦しいけれども皆の為に頑張ろう」「皆は勝利に向かって頑張ろう」という意味であります。間違った訳が独り歩きしていることが本当に気になって仕方がない。ロータリーでは「一人のロータリアンは皆の為に」そして「ロータリアンは一つの目的、世界平和に向かって行く」ことです。皆さんどこかでこういう訳を聞いたら間違えを正して頂きたいと思えます。

- 西クラブの新バナーがロータリーの友10月号に紹介されていますのでご覧ください。

## 歴代会長プレート授与

川田会長より第33代会長柴田会員へ

## 会務報告

- 10月30日 東RC休会、10月31日帯広RC休会のご案内
- 11月15日 西RC夜間例会のご案内
- 11月19日 南RC休会のご案内
- 安平様より当クラブへ姫路のお土産を頂いております。

## 委員会報告

### プロジェクト委員会

神田龍一 会員

- 会長方針の「訪ねようロータリークラブ」を担当しております。制作趣旨をバナーの裏に入れました。皆さん訪ね方がまだまだ足りません。会長が強く命令しておりますので、是非訪問して頂きたいと思えます。11月22日が担当例会で、それから担当が5回もあるので、皆さんの発言の機会があると思えますので宜しく願ひ致します。

## ニコニコ献金

川田章博 会員 前回例会欠席、岡田副会長御礼。安平ご夫妻来帯御礼。

天野清一 会員 同好会特別例会コンペ優勝御礼。  
松見喜明 会員 同好会特別例会コンペ102回で準優勝御礼。  
萱場誠一 会員 同好会特別例会コンペまん中賞御礼。年間賞金王。

帯広RC

讃岐武史 会員 帯広カントリークラブご利用御礼。

2012年  
10月

## 職業奉仕月間

ニコニコ  
献金

10月25日

12,000 円

累計

284,000 円 (10月25日現在)



会長 川田 章博  
幹事 大友 広明

副会長 岡田 武稔  
副会長 古田 敦則

会場監督理事 上垣香世子  
プログラム委員理事 河西 智子

発行：広報委員会  
委員長 鈴木 享 (副) 本田美喜男



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

## ◆ プログラム

- 今夕は「ロータリーの友」前委員長、現在特別顧問、RI2680地区のバスター、我々がホストクラブとなった地区大会において、基調講演をして戴いた姫路ロータリークラブの安平和彦様をお迎えしての特別例会です。その時の基調講演のタイトルは「ロータリーの職業奉仕と日本の伝統的実業倫理」でありまして職業奉仕とは実は儲かる商売の極意だとか、あるいはロータリーが始まるずっと以前から日本には二宮尊徳の報徳思想だとか、近江商人の「売り手よし・書いてよし・世間よし」の三方よしの考え方が身近にあって、誰もが知っているそのことが正に職業奉仕なのだというお話は大変新鮮でした。
- 今年度クラブテーマは「学ぼうロータリー、訪ねようロータリークラブ」ですが、その「学ぼうロータリー」として川田会長は、我々が日ごろ接する機会が少ない日本のロータリーをリードしている重鎮とも言えるロータリアンをお招きしてお話を伺う、そしてロータリーに対する真摯な姿勢から多くを学びたいと考えておられます。持ち前の積極性、猪突猛進、ばんえい競馬的、バックギヤーがない、そんなキャラを遺憾なく発揮して、今夕のプログラムとなりました。安平様には、そのターゲットにされましたことに、川田会長を除く帯広西クラブ全員、ご同情申し上げ、また申し訳なく思っておりますし深く感謝いたしております。
- 安平様は全国各地の地区大会においてRI会長代理を務め、あるいは基調講演をされるなど、正に川田会長がいうところの「日本のロータリーをリードされる方」です。本来、1クラブの例会で講話をいただくなど、望外のことです。川田会長の熱意と安平バスターの友情によって今夕、特別な例会が実現しました。帯広西クラブにとって、大変贅沢な時間となります。安平様、宜しく願い致します。

広報委員会 鈴木 享委員長



## ロータリーの初心をたずねて

安平 和彦様

- ご丁寧なご紹介賜り汗をかく思いです。また、こんな話を妻に聞かせたことがなく目の前に妻がいるのが緊張を増幅させる原因になっております。

2年前柴田ガバナー年度の地区大会に来てお話をさせて頂きました。今回は川田会長が「俺が会長になったからやって来い」との指令が御座いまして、「はいはい」と行かないと怖いものですから参った訳です。ロータリーの友は一般社団法人ロータリーの友事務所が発行している訳ですが、その編集発行と事務所の監督しているのがロータリーの友編集委員会で川田会長はその地区代表委員としてロータリーの友を通して委員会と地区とを結んで活躍して頂く役割でした。本当に川田会長がやっていたのかと疑っている方もいると思いますが、昨年3月11日の忌まわしい大震災、私どもの地区大会の前日でありまして、その後日曜日の夜に上京し、月曜日に理事会と編集委員会の合同会議をやる予定でしたが、電車も動かず午前中に急きょ中止だと連絡したが、もうすでに川田会長は飛行機に乗っておられ東京までおいで頂きました。早く連絡せよとしかられ申し訳なくお昼ごはんだけ食べて頂いてお帰り下さいと、そんなことがありました。そんな状況下でも東京へおいで頂いた川田会長が地区の代表委員として非常に活動して頂いていた動かぬ証拠、私が証拠ですので申し上げておきます。

昨日からこちらに来ていますが、川田会長の温泉付き別荘にお招きいただき奥様の手作り料理と夫婦4人でワインを4本もあけてしまいました。今朝はドライブに連れて行って頂き委員会から始まった友情に厚く感謝申し上げます。

- さて本論ですが、「ロータリーの初心をたずねて」は実は、私のロータリー学の小堀憲介先生が、昭和45年青森で連続講義をなさった時のテーマで、昨今のRIの現況を見ておますと、ロータリーの初心を改めて皆さんに知って頂いた方が良くと思いこの大テーマに挑戦させて頂いた訳で、ロータリーの創立期のお話も聞いて頂きたいと思っております。
- 「ロータリーの初心」とは1905年の創立のころ～1923年の決議23-34のころであります。ポール・ハリスとその仲間たちの間の原始ロータリーの時代から対社会的意義を自覚し、親睦派と奉仕派の対立を経て、個人奉仕としての職業奉仕理念と団体奉仕としての社会奉仕理念の衝突を、1923年のセントルイス国際大会での決議23-34により解決し、ロータリー分裂の危機を回避していった歴史の時代です。初期ロータリーの基本思想は、決議23-34により集大成されました。
- ロータリー創立については、成功を夢見た人たちが集まった、無法と腐敗の街シカゴから始まりました。すべての人はライバル孤独感と疎外感に加えて、過酷な自由競争に敗北するかもしれないという恐怖感が付きまとっていた中で弁護士のポール・ハリスと仲間のたった4人で1905年2月23日にロータリークラブを結成し様々なルール創りと奉仕概念を導入しました。

中略(例会時配布資料による)



- ガイガンディカー (フィラデルフィアRCI1923-24年度RI会長) 1915年「ロータリー道徳律」に示された職業奉仕理念の高ぶりを受けて、「哲学及び教育委員会」の委員長としてまとめる。道徳律を、ロータリアンのロータリー運動の理解のために体系的に解説したものの高度な職業倫理と奉仕理念を提唱された。
- ロータリー通解の説くところでは、ロータリアンは、ロータリーから各種の職業分野に派遣された代表なのであり、各種の職業分野からロータリーに派遣された代表ではない。この解釈をとると、各会員はロータリーの代表として、…つまりメッセンジャーとして…ロータリーの原理と理想を説き、ロータリーの他人に対する思いやりの精神とロータリーの職業倫理基準をその同業者に伝達すべき任務を、ロータリーから課せられることになるのである。同様にして、ロータリアンは、ロータリーの代表として、自己の職業分野における劣悪な理想といかがわしい商法をやめさせるべき責任を感じなければならない。これが、ロータリアンメッセンジャー論とされています。

中略(例会時配布資料による)

- 決議23-34第1条でロータリーは、基本的には、ひとつの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は、「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。相反する二つの心の葛藤を調和した「利己と利他の調和」の哲学です。すなわち、この利己と利他の調和の哲学が、「The philosophy of Rotary」であり、「The Ideal of Service」(奉仕の理想)に外ならない。この哲学は「Service Above Self」の哲学であり、「He profits most Who serves best」の実践倫理原則に基づきます。

Service Above Selfは自分のことより先に他人のために尽くすことは、やがて巡りめぐって自分の人生を照らし、明るくするというので、He profits most Who serves bestは利己と利他の調和の原則、すなわち奉仕の理想の哲学を自己の職業に適用し、他人のために倫理に適った職業を営むこと、このようにして自己と自己の企業の倫理性を高めていくことが、自らと自らの企業の信用を高めていき、結果的に、自己の企業の安定的且つ永続的な利潤を確保していくことにつながるのだ、ということなのです。

中略(例会時配布資料による)

- 最近のRIの動きやRI理事会提案等がありますが、私はロータリーの初心を忘れ去ることはロータリーの崩壊の危機と思っています。会員数の減少・停滞、1905年にたった4人の仲間から出発し1925年には2000のクラブに、第2次大戦で一時的に減少するも、戦後は増強拡大の一途をたどってきたが、最近では日本でもアメリカでも会員数も減ってきている原因は何処にあるのか考える訳ですが、その時に日本ロータリーの軌跡を振り返ってみるのが大切である。1920年に東京クラブが誕生し1931年満州事変、1932年に5.15事件、1933年に国際連盟から脱退し1936年に2.26事件…、そんな中日本のロータリーがスパイの組織ではないか、ユダヤのフリーメイソンの手先ではないのかという時代もありました。戦前東京三越では世界のスパイ展が開かれ、そこにロータリーがスパイの使者と展示され、当時米山梅吉氏が抗議をしましたが、取り下げてもらえなかった経緯もありました。ロータリーの例会に特高警察がきて見張ると言う様な色々な歴史があった。ついに昭和15年に全て解散をし、国際ロータリーから脱退をしました。しかしながら、東京水曜会、大阪金曜会、神戸木曜会、札幌職能クラブ、福岡清和会、と言うような名称で、以前の例会の内容と同じ様に、隠れキリシタンのごとく例会を続けてきました。それは、ロータリーに魅力があったのだろう。ところが、その魅力が無くなってきている事が、今のロータリーの問題だろうと考えます。ある京都クラブの方言うには、ロータリーというのは創立当初から、緩和の歴史を繰り返し、色々な原則を緩めて会員を増やそうとしましたが、今減っていくのは、その会員増強のパラドックスを考えなければいけないと言われました。基本的原則を重視しなくなり、プライドやブランドが感じられなくなったからだとおっしゃいました。戦後は会員増強を言わなくても入会したい方であふれていた時代には増強の手を留めてロータリーの原石を磨こうと言った時代もあった。景気の問題もあるでしょうが減少に転じ、今年度田中会長は9万人を切った日本のロータリーの人口を11万人にしようと言っており、その位言うとう度歩留まりで10万人になるだろうと言っています。しかし今考えることは基本原則を振り返ることだろうと思います。

- ビチャイ・ラタクル元会長(02-03)が2008年国際協議会講演で、ここ数年においてロータリーの会員数が世界的に降下をたどっていることから、私たちは、会員の勧誘に必死になるあまり、ロータリーの会員基盤の原則の真髄を忘れ勝ちになっている。職業分類の原則は無視され、会員の資格にも注意が払われていないのが現状である。永遠の原則を守らなかったがゆえに、私たちは永遠の価値観を失ってしまっている。このように、今日、企業経営者たちからすると、ロータリーも、数多ある他のクラブと何ら変わりがない。そうであるならば、いま、私たちがなさなければならない仕事とは、ロータリーへの揺るぎない信念、新たなる信念を同胞ロータリアンに与えることである。全てのロータリアンは、ロータリークラブの会員になることはゴルフクラブや囲碁クラブの会員になることとは異なるのだとする信条を支持する必要がある。つまり、基本的な原則に戻り、過去100年あまりにわたり、親睦と奉仕において私たちのクラブの発展に寄与し続けてきた永遠の価値観を尊ぶことである。

誰が「ロータリー」を必要としているか「皆さんと私と世界中のロータリアンである。」

翌年の2009年国際協議会でラジェンドラ・サブ元会長(91-92)は精神的な指導者(my spiritual guru)であるスワミジに、こう尋ねたことがあります。「時として自分の仕事を犠牲にしてまで、ロータリーのために時間を割き、任務を果たすことに果たして意義があるのだろうか」と。「人間として成長できるなら、それは意義がある」というのが、スワミジの答えでした。サブ元会長は「ロータリーのおかげで人間的に成長できているだろうか」と自分に問いかけてみてください。」

また四つのテストを考案したハーバート・テイラーは「Rotary is a maker of man, and a builder of friendship」ロータリーは人間を造り育むものであると精神的な支えになる、この様なことがロータリーの杖言葉になるのだと考えております。

最後に我々は縁あってロータリーの世界に入った。ただ漫然とバッジをつけ、例会に顔を出しているだけではもったいない。「ロータリーの例会は人生の道場である」という米山梅吉翁の境地に学び、なによりも「ロータリー哲学」を実践することは、必ずや、他人を助け、やがては巡りめぐって自らの人生を明るく照らし、いずれは自己の職業を隆々と栄えさせるのだという信念と、ロータリアンとしての誇りを持ってロータリー人生を楽しんでいただきたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。

#### ◆ 謝辞・バナー交換

一言謝辞を申し上げます。ロータリーは結構複雑で解り難いと思っており、文章を読むと眠くなる様なことがあります。今回のお話は実に解り易くお聞きすることができ、有難うございました。心から厚く御礼申し上げます。

ご夫妻がこれからも益々仲睦まじく、これから続くロータリー活動と素晴らしいロータリアン人生を送って頂くことを心から念願しお礼の言葉と致します。



P.S.

広報編集担当の独り言ですが、本例会の安平様の講話は会報作成にあたって非常に分り易く、特に私も含め、入会年度の浅い会員には勉強になったと思っております。パワーポイント資料も配布されましたので、中略の部分も是非もう一度読み返すことをお勧め致します。